

日本禁煙学会の対外活動記録 (2019年12月)

- 12月11日** 日本禁煙学会HPの「受動喫煙にお困りなら：受動喫煙防止対策」に「全国の市区議会、都道府県議会の「屋内全面禁煙」の状況(2019年12月現在) —全国の市区議会は97%が「屋内全面禁煙」以上で、1/3は敷地内禁煙—」を掲載しました。
- 12月17日** 日本禁煙学会HPに「電子タバコ、加熱式タバコをお使いの方に重要なお知らせ」を掲載しました。
- 12月23日** 国会の屋内禁煙に関する要請書を衆参議長あてに送付しました。

〈第4回日本禁煙学会雑誌優秀論文賞〉

日本禁煙学会雑誌の2018年発行第13巻4、5号および2019年第14巻1、2、3号の5冊に掲載された原著論文11編より、編集委員会が優秀論文を選定しました。その結果、以下の論文が優秀論文に選ばれました。

第13回日本禁煙学会学術総会において発表され、理事長より表彰状が授与されました。

松浪容子氏(山形大学医学部看護学科)

第13巻5号

「福祉事務所現業員による生活保護受給者に対する禁煙支援の実態と社会的ニコチン依存」

http://www.jstc.or.jp/uploads/uploads/files/journal/gakkaisi_181231_101.pdf

〈第3回繁田正子賞報告〉

多年にわたり喫煙防止教育や後進の育成に情熱を捧げられた故繁田正子先生の遺徳を偲び、次世代を担う若者によるタバココントロール研究・調査および活動を奨励する目的で、2017年5月に日本禁煙学会繁田正子賞(Shigeta Masako Young Investigator Award; SMYIA)が設立されました。

山形での第13回学術総会においても繁田正子賞セッションで8演題が発表されました。審査委員の協議の結果、最優秀賞、優秀賞に以下の3演題が選ばれ、会員懇親会の場で作田理事長より表彰状および賞金が手渡されました。

◎最優秀賞

正木克宜氏(慶應義塾大学医学部 呼吸器内科)

「新規開発禁煙支援スマートフォンアプリの禁煙外来での長期的禁煙継続効果
(多施設共同ランダム化比較試験)」

◎優秀賞

平井邦朗氏(昭和大学病院 呼吸器アレルギー内科)

「COPD患者における加熱式タバコを含めた多施設喫煙実態調査
—どのようなCOPD患者が、何故禁煙しないのか—」

中辻侑子氏(聖マリアンナ医科大学 医学部)

「医学生の喫煙調査：加熱式タバコの普及状況と喫煙所の遠方移転に伴う喫煙行動の変化」

今後、繁田正子賞が学会員の皆様のご理解により、より多くの応募を得て、さらに充実した内容となり、若手タバココントロール研究者や活動家の登竜門となることを期待しています。

〈第1回 GRP賞 (grass roots power、草の根活動賞) (仮称) について〉

GRP委員会委員長、香川タバコの害から健康を守る会
森田純二

平成最後の日本禁煙学会を香川県で開催いたしました(平成30年11月10、11日)、予想以上の参加者、寄付金があり、余剰金を学会に納めさせていただきました。作田理事長から一部をGRPのために使用させていただくことを了承していただいたので、令和元年の山形大会から急遽GRP賞を最優秀賞1名、優秀賞3名を表彰させていただきました。今回は全く余裕がなく急に決めたこともあり、主に山形大会長・川合厚子先生と私とで大まかなところを決めてGRP委員にはメールで了承を得て以下のように決めさせていただきました。

◎最優秀賞

鈴木久美子氏、鈴木華凜氏(山形県立荒砥高等学校)

「地域と連携した喫煙防止教育～生徒保健委員を中心とした13年間の取り組み成果～」

◎優秀賞

鈴木隆宏氏(ちょうふタバコ対策ネットワーク)

「ちょうふタバコ対策ネットワークの取組みと成果」

大竹修一氏(NPO法人山形県喫煙問題研究会)

「喫煙防止教育は本当に有効なのか？」

・・・成人式でのアンケート調査に見る新成人の喫煙率と喫煙防止教育の効果」

細川洋平氏(近江八幡市立総合医療センター)

「地域の草の根活動は喫煙率低減化に、そして平均寿命・健康寿命の延伸に貢献する
—近江八幡市での15年にわたる草の根活動を振り返って—」

次回からは早急にGRP賞の規約や選考方法をGRP委員会中心に考えていく予定です。なお、本賞はおおむね10回を予定しています。すでにある繁田正子賞や、このGRP賞などが本学会の学術総会の活性化につながればありがたいと考えています。

〈編集後記〉

本年の日本禁煙学会誌第14巻は、皆様からの多数の投稿により5号まで発刊することができました。深く感謝申し上げます。内容は原著論文10編、資料2編、短報1編、調査報告1編、特別報告1編でした。

第1号の巻頭言では、本年の学術総会の大会長である川合厚子先生より、山形県受動喫煙防止条例案が可決されたことにより、山形大会に向けて禁煙の機運が高まったことが、大会長の熱い思いとともに述べられています。この巻頭言でのPRに加えスタッフの皆さんの努力により、本年の山形大会は大勢の参加者が集い、大成功を収めました。2号の巻頭言では加濃正人先生により、今年度新たに作られた心理学部会設立の経緯や今後の展望などが述べられています。3号では今年の7月から施行された改正健康増進法について、作田理事長から成立の経緯と具体的内容について詳しく述べられました。4号では近年大きな問題となっている新型タバコについて、先進的な研究をなされている田淵貴大先生より、必要な対策や今後の課題が提示されました。

原著論文では、大学生、看護学生、薬学生などを対象とした喫煙に対する認識や意識の調査など、若年者に焦点を当てた研究も多く見られました。また、改正健康増進法の施行を意識した居酒屋や同居家族からの受動喫煙に焦点を当てた研究も見られ、社会情勢に沿ったテーマの論文が増えている印象を持ちました。また資料では世界禁煙デー・宮城フォーラムの活動について、さまざまな工夫を凝らした取り組みが報告されています。

一方、本年の第4回優秀論文賞は、第13巻5号から第14巻3号を対象に選出を行いました。その結果、松浪容子氏の「福祉事務所現業員による生活保護受給者に対する禁煙支援の実態と社会的ニコチン依存」が選出されました。喫煙率の高い生活保護受給者に対し禁煙支援を行う現業員の現状を的確に調査されたことが評価されました。

日本禁煙学会誌は、さまざまな視点から禁煙について調査された論文や、地域に根ざした活動報告など、オリジナリティの高い論文が掲載されています。ぜひ来年も多くの方からの投稿がありますことを願っております。

(編集委員 谷口千枝)

〈第14巻査読者一覧〉

日本禁煙学会雑誌第14巻の発行に際しまして、下記の方々に論文査読のご協力を賜りました。ここにお名前を挙げさせていただき、厚く御礼申し上げます。

お名前(五十音順、敬称略)

相澤政明、稲垣幸司、加藤正隆、加濃正人、川根博司、川俣幹雄、北田雅子、栗岡成人、黒澤 一、郷間 巖、酒井ひろ子、佐藤 功、清水隆裕、杉尾賢二、鈴木幸男、瀬在 泉、高橋正行、高橋勇二、天貝賢二、富永敦子、野上浩志、橋本洋一郎、蓮沼 剛、平間敬文、細川洋平、松崎道幸、松浪容子、宮脇尚志、山岡雅顕、渡辺憲太郎

日本禁煙学会雑誌はウェブ上で閲覧・投稿ができます。
最新号やバックナンバー、投稿規程などは日本禁煙学会ホームページ <http://www.jstc.or.jp/> をご覧下さい。

日本禁煙学会雑誌編集委員会

●理事長	作田 学	
●編集委員長	山本蒔子	
●副編集委員長	吉井千春	
●編集委員	稲垣幸司	川根博司
	川俣幹雄	佐藤 功
	鈴木幸男	高橋正行
	谷口千枝	野上浩志
	蓮沼 剛	細川洋平
	山岡雅顕	(五十音順)

日本禁煙学会雑誌

(禁煙会誌)

ISSN 1882-6806

第14巻第5号 2019年12月31日

発行 一般社団法人 日本禁煙学会

〒162-0063

東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201 日本禁煙学会事務局内

電話：03-5360-8233

ファックス：03-5360-6736

メールアドレス：desk@nosmoke55.jp

ホームページ：http://www.jstc.or.jp/

制作 株式会社クバプロ